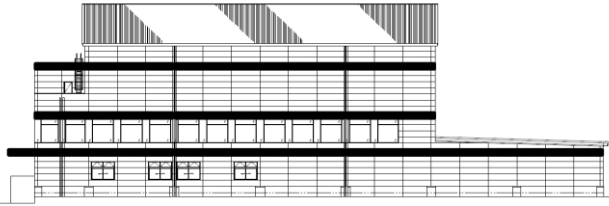


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

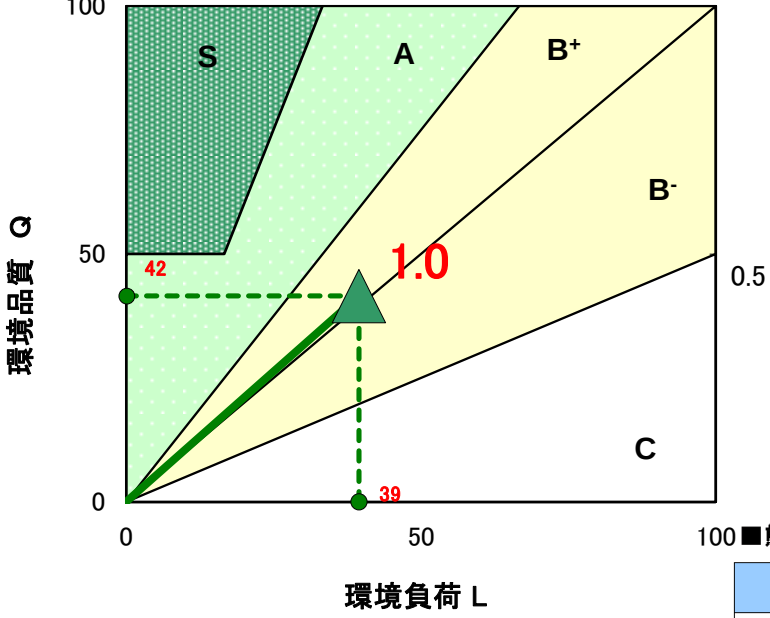
■ 建物概要				■ 外観
建物名称	(仮称)ルネサンス熊本新築工事	階数	地上3階	
建設地	熊本県熊本市中央区大江二丁目19	構造	S造	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	800 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	4,050 時間/年	
建物用途	集会所,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2017年5月25日	
敷地面積	6,010 m ²	作成者	寺川幸子	
建築面積	2,012 m ²	確認日	2017年5月26日	
延床面積	4,608 m ²	確認者	足森淳二	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 Q



環境負荷 L

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	0.5以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

BEE=1.0

ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★
30%超60%以下	★★★★
60%超80%以下	★★★
80%超100%以下	★★
100%超	★

熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★★★★
80点以上100点未満	★★★★★★
60点以上80点未満	★★★★
40点以上60点未満	★★★
40点未満	★

ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

91%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

81

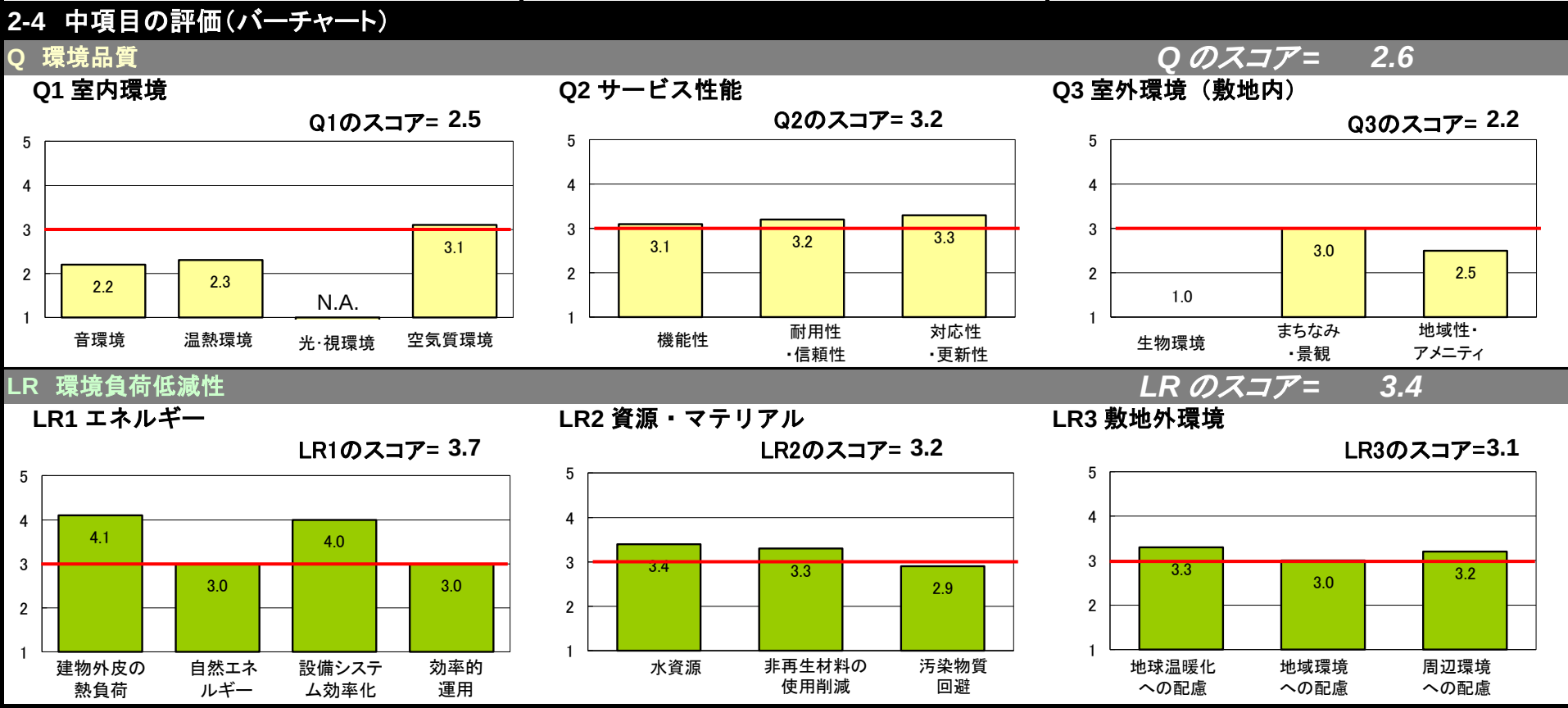
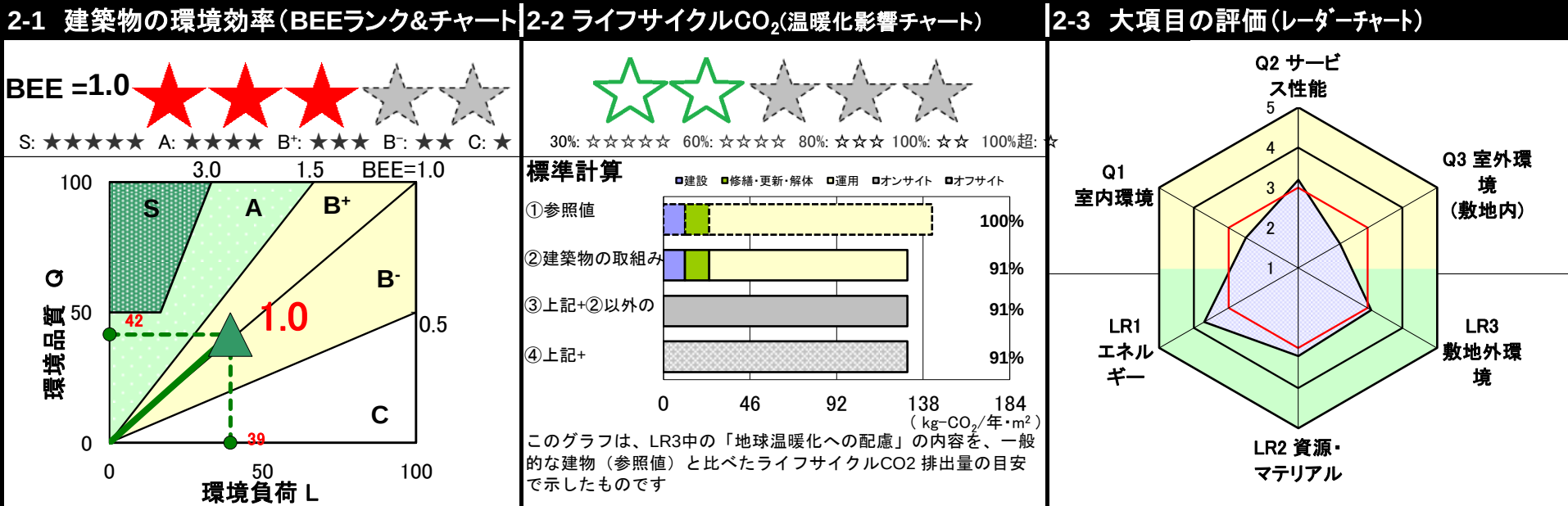
重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	87.8
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	65.0
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	87.7

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® 熊本《新築》 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ルネサンス熊本新築工事	階数	地上3階
建設地	熊本県熊本市中央区大江二丁目19	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	800 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,050 時間/年
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2017年5月25日
敷地面積	6,010 m ²	作成者	寺川幸子
建築面積	2,012 m ²	確認日	2017年5月26日
延床面積	4,608 m ²	確認者	定森淳一



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版 (仮称)ルネサンス熊本新築工事			欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)		
スコアシート 実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質							2.6
Q1 室内環境				0.40		-	2.5
1 音環境			2.2	0.23	-	-	2.2
1.1 騒音			1.0	0.40	-	-	
1.2 遮音			3.0	0.40	-	-	
1 2 開口部遮音性能			3.0	1.00	-	-	
2 界壁遮音性能			-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	
1.3 吸音			3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境			2.3	0.44	-	-	2.3
2.1 室温制御			3.6	0.50	-	-	
1 室温			夏季26℃、冬季22℃	4.0	0.50	-	-
2 外皮性能			2.0	0.17	-	-	
3 ゾーン別制御性			大まかな空調ゾーニングでマルチユニット型ヒートポンプ方式	4.0	0.33	-	-
2.2 湿度制御			1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式			1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境			-	-	-	-	-
3.1 昼光利用			-	-	-	-	
1 昼光率			-	-	-	-	
2 方位別開口			-	-	-	-	
3 昼光利用設備			-	-	-	-	
3.2 グレア対策			-	-	-	-	
1 昼光制御			-	-	-	-	
3.3 照度			-	-	-	-	
3.4 照明制御			-	-	-	-	
4 空気質環境			3.1	0.33	-	-	3.1
4.1 発生源対策			3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質			3.0	1.00	-	-	
2 アスベスト対策			-	-	-	-	
4.2 換気			4.0	0.30	-	-	
1 換気量			3.0	0.50	-	-	
2 自然換気性能			-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮			異方向で6m以上離れている	5.0	0.50	-	-
4.3 運用管理			2.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視			3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御			1.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	3.2
1 機能性			3.1	0.40	-	-	3.1
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性			-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応			-	-	-	-	
3 バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性			3.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観			-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース			-	-	-	-	
3 内装計画			3.0	1.00	-	-	
1.3 維持管理			3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			維持管理に配慮した設計	4.0	0.50	-	-
2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務			-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性			3.2	0.30	-	-	3.2
2.1 耐震・免震			3.0	0.50	-	-	
1 耐震性			3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			床:カーペット20年,壁:PBボード下地ビニルクロス貼20年,天井:PBボード30年	5.0	0.10	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			主要な用途:給水管、汚水排水管、通気管:B以上、Eは不使用	5.0	0.20	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.20	-	-	

	2.4 信頼性			3.4	0.20	-	-		
	1	空調・換気設備	空調・換気設備は負荷容量を下げた運転が可能	4.0	0.20	-	-		
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-		
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-		
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-		
	5	通信・情報設備	多様な情報手段の設置、地下空間への設置なし	4.0	0.20	-	-		
3 対応性・更新性				3.3	0.30	-	-	3.3	
	3.1 空間のゆとり			4.0	0.30	-	-		
	1	階高のゆとり	壁長さ比率0.15	-	-	-	-		
	2	空間の形状・自由さ		4.0	1.00	-	-		
	3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-		
	3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-		
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-		
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-		
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-		
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.2	
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5	
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-		
	3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.4	
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.7	
1 建物外皮の熱負荷抑制				ブラインドの採用	4.1	0.20	-	-	4.1
2 自然エネルギー利用					3.0	0.10	-	-	3.0
	3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.89 住宅(専有部) -	4.0	0.50	-	-	4.0	
	集合住宅以外の評価(3a.3b)		LED照明、空冷ヒートポンプ空調器の高効率機器の採用	4.0	1.00	-	-		
	集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-		
	4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0	
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-		
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-		
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-		
	集合住宅の評価			-	-	-	-		
	4.1	モニタリング		3.0	-	-	-		
4.2	運用管理体制		-	-	-	-			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2	
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4	
	1.1 節水		過半に節水コマ及び省水型器機を採用	4.0	0.40	-	-		
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-		
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-		
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.60	-	-	3.3	
	2.1 材料使用量の削減		- 外構路盤材:再生クラッシャーラン,エントランス床タイル:カリッサ,事務室ビニル床タイ	3.0	0.10	-	-		
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-		
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-		
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-		
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-		
	2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			3.0	0.20	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.9	0.20	-	-	2.9	
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含有しない材料が1種類	4.0	0.30	-	-		
	3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.70	-	-		
	1	消火剤		-	-	-	-		
	2	発泡剤(断熱材等)		2.0	0.50	-	-		
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.1	
1 地球温暖化への配慮				ライフサイクルCO2排出量=91%	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮					3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1 大気汚染防止		設備管理用車両スペースはD-22Cの設備エリア前の空間	3.0	0.25	-	-		
	2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-		
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-		
	1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-		
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-		
	3	交通負荷抑制		5.0	0.33	-	-		
	4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33	-	-		
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2	
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		光害ガイドラインチェックリストの過半を満たす。広告物照明なし。	3.0	0.40	-	-		
	1	騒音		3.0	1.00	-	-		
	2	振動		-	-	-	-		
	3	悪臭		-	-	-	-		
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-		
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-		
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-		
	3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-		
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		5.0	0.70	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-				

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

スポーツ施設用途により、室温設定や、空調ゾーニングに配慮し室内環境に努める。
ブラインドの採用、LED照明・空冷ヒートポンプエアコンの高効率機器の採用により、省エネルギー性能に配慮。

Q1 室内環境

スポーツ施設用途により、室温設定や、空調ゾーニングに配慮し、快適な室内環境に努める。

Q2 サービス性能

耐用年数の長い材料の使用、維持管理性能に配慮し、機能性・耐用性および信頼性に努める。

Q3 室外環境（敷地内）

可能な限り植栽、日影形成の為の庇を計画し、敷地内環境に配慮。

LR1 エネルギー

ブラインドの採用、LED照明・空冷ヒートポンプエアコンの高効率機器の採用により、省エネルギー性能に配慮。

LR2 資源・マテリアル

節水型機器、リサイクル資材の利用等で、資源・マテリアルに配慮。

LR3 敷地外環境

ライフサイクルCO₂排出量=91%に抑制、また交通負荷抑制に努め、敷地外環境に配慮。

その他

特になし。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)ルネサンス熊本新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	81
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				87.8	0.40	35.12
Q1-2.1.2	外皮性能	2.0	0.15			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	0.0	0.00			
Q1-3.2.1	昼光制御	0.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.1	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				65	0.20	13.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				87.7	0.20	17.54
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数